

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2016

課題番号：15K16451

研究課題名(和文) 総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャー能力評価尺度の開発と活用

研究課題名(英文) Development and utilization of community sports club manager's competency scale

研究代表者

高岡 敦史 (Takaoka, Atsushi)

岡山大学・教育学研究科・講師

研究者番号：60550291

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーに対する「発揮している能力」に関するインタビュー調査および業務観察の結果、(1)チームビルディング(5項目)、(2)対話促進(4項目)、(3)アイデア提示(4項目)、(4)意思決定(3項目)、(5)人材調達(3項目)、(6)人材育成(3項目)、(7)事務遂行(2項目)、(8)事務遂行支援(2項目)、という仮説構成次元と下位要素が生成された。その後のクラブマネージャー56名を対象としたインターネット調査を行い、確認的因子分析を施したが、測定尺度として十分な説明力を得ることはできなかった。

研究成果の概要(英文)：In this research, I conducted an interview survey and work observations on 'demonstrated competency' to club managers at community sports clubs. I discovered these competencies, (1) team building (5 items), (2) promoting dialogue (4 items), (3) presenting ideas (4 items), (4) decision making (3 items), (5) human resource procurement (3 (2 items)), (6) Human resource development (3 items), (7) administrative execution (2 items), and (8) support for business performance (2 items). However, the results of confirmatory factor analysis did not have sufficient explanatory power as a measurement scale.

研究分野：スポーツ経営学

キーワード：総合型地域スポーツクラブ クラブマネージャー 能力

## 1. 研究開始当初の背景

### (1)総合型地域スポーツクラブのマネジャー研究

これまで、総合型地域スポーツクラブの経営者としてのクラブマネジャーに関する研究は、先進クラブのクラブマネジャー個人を事例として取り上げたもの(高岡,2008)や、規範的なクラブマネジャー像を論じたもの(野崎,2008)であった。

2010年以降、クラブマネジャーの仕事特性や職務内容に関する研究(村田,2013;村田,2012)や成長(気づき)の研究(西原,2012)など、本格的な実証研究が展開され始めている。これらの先行研究は総合型地域スポーツクラブ経営の成否がクラブマネジャーにかかっているという共通認識を持っている。クラブマネジャーは日本体育協会が認定する公認資格であり、クラブによっては有給の専門職として雇用されている場合もある。しかし、クラブマネジャーがどのような能力を有していれば良いのか、ということは科学的に解明されているわけではないし、各クラブマネジャーがどの程度の能力を有しているかを評価する手段としての尺度は開発されていない。

(参考研究)

野崎武司(2008)専門職としての地域スポーツクラブマネジャー養成の可能性と課題。体育・スポーツ経営学研究 22:19-23

村田真一(2013)クラブマネジャーの仕事特性に関する一考察。札幌国際大学紀要 44:115-126

村田真一(2013)クラブマネジャーの職務特性に関する一考察。日本体育学会大会予稿集 63:177

西原康行(2012)総合型地域スポーツクラブクラブマネジャーの学びの過程：実践家としての気づきに注目して。体育・スポーツ経営学研究 25:25-36

高岡敦史「会長のリーダーシップ」柳沢和雄編『総合型地域スポーツクラブの発展と展望 - KSCC30年の軌跡 -』不昧堂出版、2008年刊行

### (2)総合型地域スポーツクラブ公認マネジメント資格に関する論説

マネジャーが地域スポーツクラブの経営の成否の多くの部分を決めるからこそ、地域スポーツ振興政策の一環としてマネジャー養成が行われているのだが、その資格認定に際しては、マネジャーがもつべき考え方や知識を伝達するための講義が行われているにすぎない。マネジャーがどのような考え方や意欲、力量を持てばよいかということについて十分な整理がなされているとは言えないのが現状である。地域スポーツクラブマネジャー資格認定に求められる学習内容の構成

や効果検証に関する学術研究は、管見の限りほとんど行われていないのである。

### (3)総合型地域スポーツクラブ・クラブマネジャーに求められる能力

前述したとおり、クラブマネジャーに求められる能力の構造・下位次元は、学術的には明らかにされていない。

一方、クラブマネジャーとしての能力を育成するための公認マネジメント資格講習において使用されているテキストには、クラブマネジャーに求められる能力として(A)経営の専門家としての能力、(B)地域スポーツの演出家としての能力、(C)地域活性化の推進者としての能力、の3つが挙げられている。また資格認定講習のカリキュラムでは、(1)コミュニケーションスキル、(2)マーケティング、(3)経営戦略、(4)クラブ運営、(5)財務管理、(6)経営評価、を学ぶことになっている。公認マネジメント資格認定講習で身に付けるとされている能力群や知識内容は、クラブマネジャーが有すべき能力を挙げたものと考えられるが、これらが実際にクラブマネジャーが発揮すべき能力が網羅されているかどうかは未検討であり、それらの能力を評価する手段は用意されていない。

## 2. 研究の目的

これまで、クラブマネジャーの能力は構造化されておらず、評価ツールも存在しない。クラブマネジャーの能力を測定可能な尺度を開発することで、公認マネジメント資格の取得だけでなく、その後のクラブマネジャー経験による成長を把握できるようになり、比較も可能となるだろう。そこで本研究は、総合型地域スポーツクラブのマネジャーの能力を構造化し、それを評価する尺度を開発するとともに、公認マネジメント資格認定が能力形成に寄与しているかを検証するものである。

## 3. 研究の方法

本研究は以下の二つの段階から構成される。

### (研究1)仮説構成次元の構築と項目化

総合型地域スポーツクラブ・クラブマネジャーの能力の構造を、インタビュー調査と業務観察から明らかにし、能力測定尺度の仮説構成次元と下位項目を挙げる。

### (研究2)測定尺度の開発

(1)で開発した仮説構成次元をもとに、現役クラブマネジャーを対象とした量的調査を実施し、測定尺度として十分な説明力のある尺度の開発を行う。

## 4. 研究成果

## (研究1)

総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーに対する「発揮している能力」に関するインタビュー調査および業務観察の結果、以下の仮説構成次元と下位項目が生成された。

- 1) チームビルディング (5項目)
  - ・会員同士の交流が生まれるように仕組む
  - ・運営委員同士の相互理解が育まれるように仕組む
  - ・クラブの理念・ビジョンをスタッフに理解してもらう
  - ・新たなスタッフが早くなじむように仲を取り持つ
  - ・新たな会員が早くなじむように、他の会員に話をする
- 2) 対話促進 (4項目)
  - ・会員同士が話ができるように場を設ける
  - ・運営委員同士が建設的な対話ができるように促進する
  - ・スタッフ同士が積極的に話し合えるよう仕向ける
  - ・会員とスタッフが話し合えるように仕向ける
- 3) アイディア提示 (4項目)
  - ・クラブの理念やビジョンについて自らの考え方を示す
  - ・事業について自らアイディアを示す
  - ・組織運営のあり方について自らアイディアを示す
  - ・外部との関係の取り方について自らアイディアを示す
- 4) 意思決定 (3項目)
  - ・クラブの理念やビジョンについて自ら意思決定する
  - ・事業の進め方について自ら意思決定する
  - ・外部との関係の取り方について自ら意思決定する
- 5) 人材調達 (3項目)
  - ・クラブの運営に関わってくれる人を探してくる
  - ・スタッフとして手伝ってくれる人を探してくる
  - ・指導者になってくれそうな会員に声をかける
- 6) 人材育成 (3項目)
  - ・運営委員の運営力を育てようとする
  - ・スタッフの人材力を育てようとする
  - ・指導者の指導力を育てるために支援する
- 7) 事務遂行 (2項目)
  - ・書類仕事をスムーズかつ正確にこなす
  - ・事業実施に必要な作業を効率的に行う
- 8) 事務遂行支援 (2項目)
  - ・事務を担う人の仕事をサポートする
  - ・事業実施に関わる人の仕事をサポートする

## (研究2)

上述の項目に対して、各内容の仕事をしていく程度を問い、「非常によくする」から「ま

ったくしない」までの5段階で回答する質問紙を作成し、現役クラブマネージャー56名を対象としたメールによる調査を行い、IBM SPSS AMOS を用いた共分散構造分析による確認的因子分析を施した。

しかし、モデルの適合度(2乗値, GFI, CFI, AGFI, RMSEA) はいずれも十分な値を示さず、測定尺度として十分な説明力を得ることはできなかった。

その原因は、以下のことが考えられる。

- ・サンプルサイズが足りない。(この原因に対応するため、最尤法を用いたが、3因子に収束してしまい、説明不能であった。)
- ・各次元と各下位項目との関係が1対1ではなく、重複している可能性があること。このことについては、クラブマネージャーの能力が、実際の業務と1対1の関係で発揮されるものではなく、網羅的・中範囲で普遍的なものなのかもしれない。

本研究の結果は当初の目的を達成できるものではなかったが、クラブマネージャーの能力が細かく構造化されるものではなく、地域スポーツ経営者としての全人的・普遍的な力量構造にある、という新たな仮説が見出された。今後の研究に着手する上で、有意義であったと言えるだろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

〔その他〕  
特になし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高岡 敦史 (TAKAOKA, Atsushi)  
岡山大学・大学院教育学研究科・講師  
研究者番号: 60550291

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

(4)研究協力者  
なし